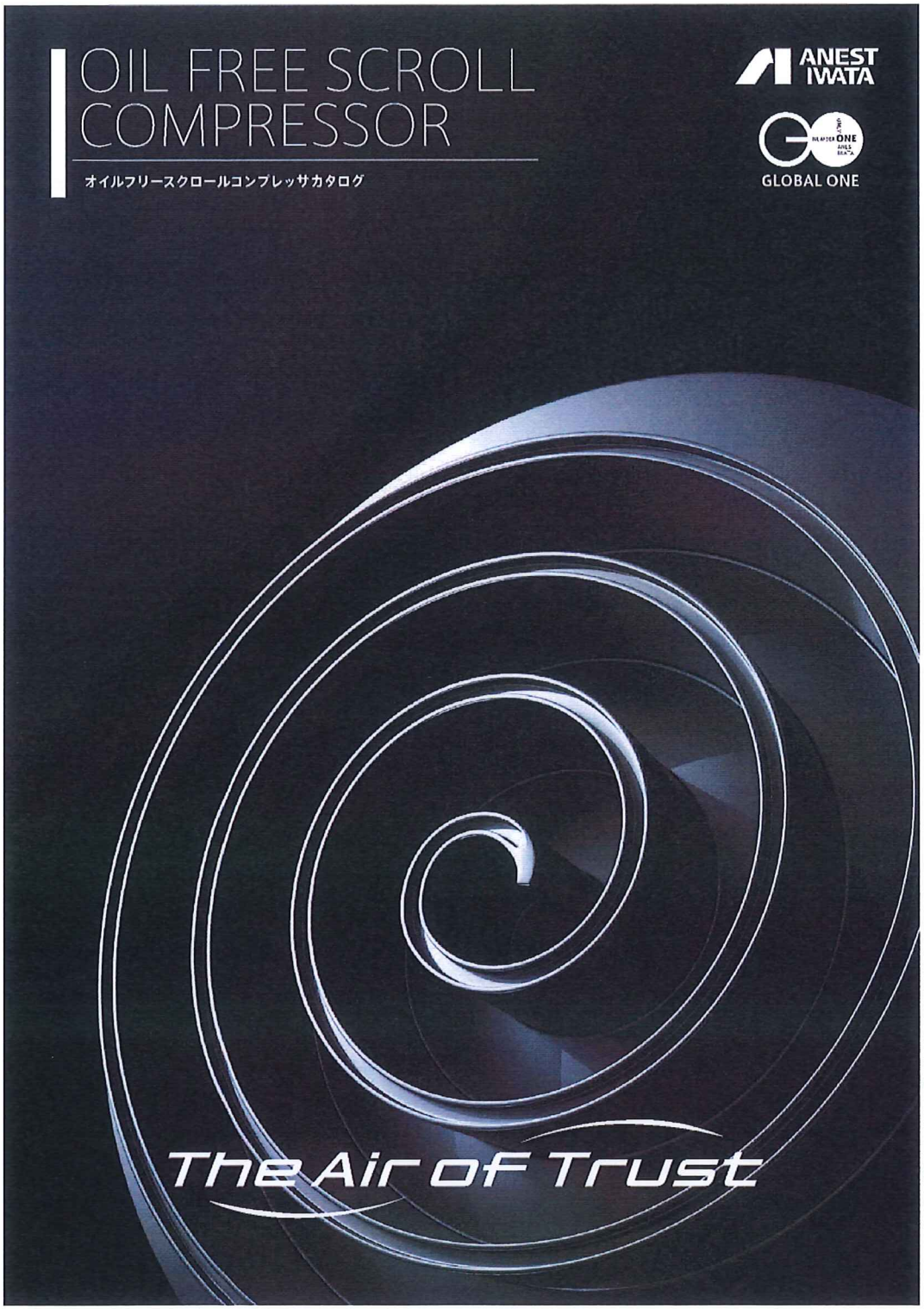
OIL FREE SCROLL COMPRESSOR

オイルフリースクロールコンプレッサカタログ

ANEST IWATA

GLOBAL ONE



Web Meeting Service

オンライン面談はじめました!!

詳しくはこちら

アネスト岩田株式会社 営業担当へのお気軽なご質問など、オンライン面談を受け付けております。



弊社はお客様の安全確保と、効率的なコミュニケーション提供の場として、
オンライン面談を開始いたしました。
お気軽なご質問から製品導入に関するご相談まで、積極的に受け付けております。

はじめての方はこちらから
→ お申込フォーム

●本カタログに記載の仕様は商品改良のため、予告なく変更することがあります。 ●仕様変更などにより、写真や内容が一部商品と異なる場合があります。

■お問い合わせは

アネスト岩田株式会社

● 東 北 支 店 050-5211-1011 (022-284-1257) ● 中部支店 050-5211-1014 (052-412-3221)
● 北関東支店 050-5211-1012 (0480-31-6840) ● 関西支店 050-5211-1015 (06-6458-5971)
● 関 東 支 店 050-5211-1013 (045-595-3660) ● 福岡支店 050-5211-1016 (092-433-1085)

受付時間：平日 午前8：45～12：10 午後13：00～17：30
(土日・祝日・夏季休暇・年末年始・当社指定の休日等を除く)

IP電話番号及び固定電話番号どちらでもご利用が可能です。ご連絡いただきました支店の回線が埋まっている場合は、他支店で受付させていただくことがございますので、ご了承ください。

【公式HP】

Active with Newest Technology https://www.anest-iwata.co.jp/

Printed in Japan CAT.No.AE-99910136-07 2024.9PDF

進化しつづける
オイルフリースクロールコンプレッサ

オイルフリースクロールコンプレッサは、1991年にアネスト岩田が
世界で初めて世に送り出してから、数々の進化を遂げてきました。
そして、これからも最先端な技術で世界の工場に高品質な空気を
送り続けます。



進化を遂げてきたオイルフリースクロールコンプレッサ



2014


2020


2020


1991

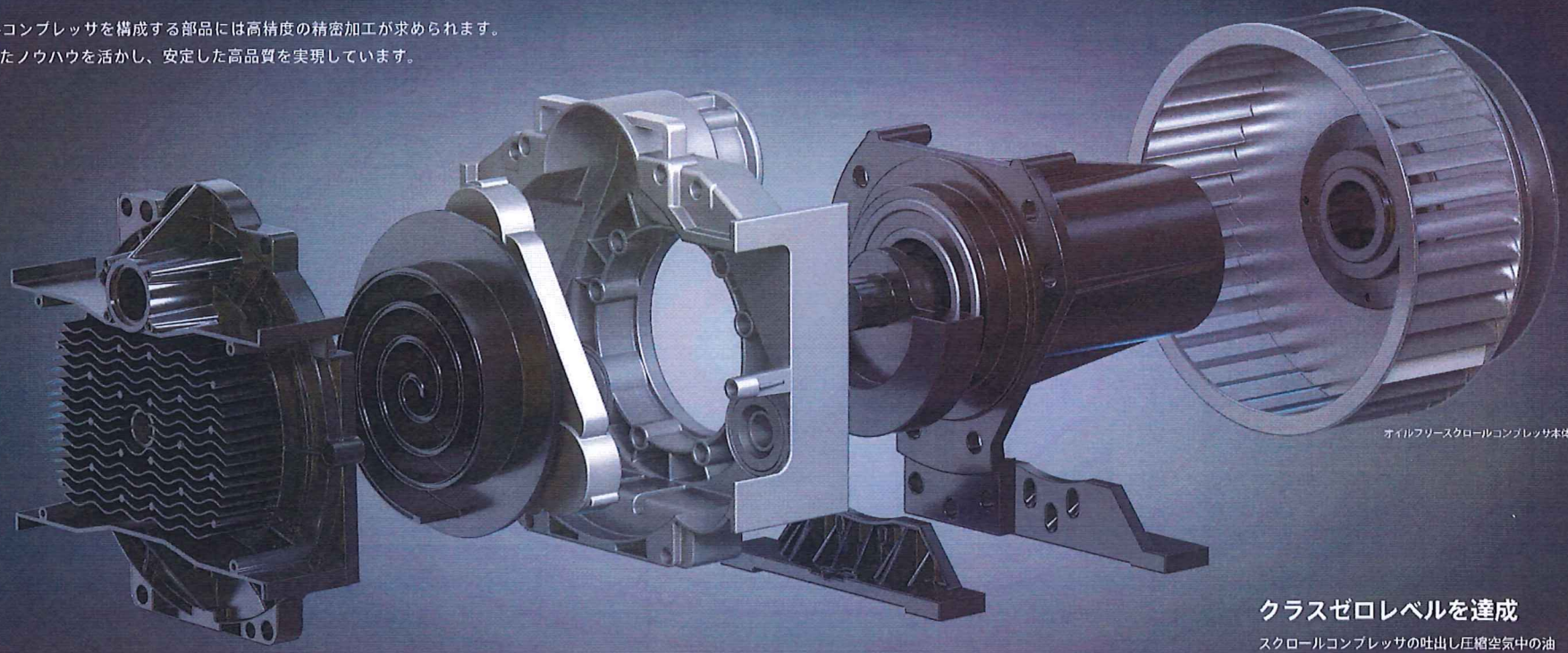

2000


2004


2006

高品質なクリーンエアを実現する技術力

オイルフリースクロールコンプレッサを構成する部品には高精度の精密加工が求められます。
当社は 20 年以上蓄積したノウハウを活かし、安定した高品質を実現しています。



オイルフリースクロールコンプレッサ本体　SL-210（7.5kW 用）

オイルフリースクロール圧縮原理

旋回スクロールが、図 1→2→3→4 と旋回するにしたがって、固定スクロールと旋回スクロールの間に空気が吸い込まれ、点対称の位置にある三日月状の圧縮室の容積が徐々に小さくなり、空気は圧縮されて、中心部の吐き出しポートから押し出されます。



オイルフリードレン

給油式コンプレッサから排出されるドレンには油分が含まれるため、適切な廃水処理が必要です。油分を含んだドレンの処理には年間 28 万円※2 程度の費用がかかるケースもあります。オイルフリーコンプレッサから排出されるドレンは特別な廃水処理が不要※3 で環境にやさしく、コストも削減します。

※2：試算条件
空気温度 30℃、相対湿度 70%、吐き出し空気量 1600L/min、吐き出し圧力 0.78MPa、ドライや加圧前点 12℃、負荷率 80%
稼働時間 15 時間 / 日、300 日 / 年、ドレン処理費用 40 円 / L
※3　ドレンを工業廃水として処理するためには、ドレンに含まれる油分が法律・条例で制定された値以下である必要があります。



オイルフリーコンプレッサからのドレン　　給油式コンプレッサからのドレン

クリーン

給油式コンプレッサが作り出す圧縮空気には油分が含まれています。この油分は配管の内面に付着して、配管を汚します。
オイルフリーコンプレッサが作り出すクリーンエアは配管の内面を汚すことなく、工場に高品質な空気を供給致します。※1

※1：空気の品質はコンプレッサが吸込む空気に影響されます。

給油式コンプレッサの配管



オイルフリーコンプレッサの配管



クラスゼロレベルを達成

スクロールコンプレッサの吐出し圧縮空気中の油分濃度を測定をしました。圧縮空気の品質等級が最高品質等級の「クラスゼロ※」レベルを達成しています。（※ISO8573-1:2010[-:-:0]）

CLASS 0 ISO 8573-1

クラスゼロとは

圧縮空気の清浄度を示す圧縮空気品質等級は、ISO8573-1(JIS B8392-1) で制定されています。
Class 0 の認証を受けるためには、圧縮空気に含まれる"液状オイル""オイルミスト""油煙" の 3 つの要素が限りなく少なくなければなりません。
特に油煙はエアフィルタで取ることができないため、コンプレッサがクラスゼロである事はクリーンエアを必要とする工場にとって、非常に重要な要素となります。

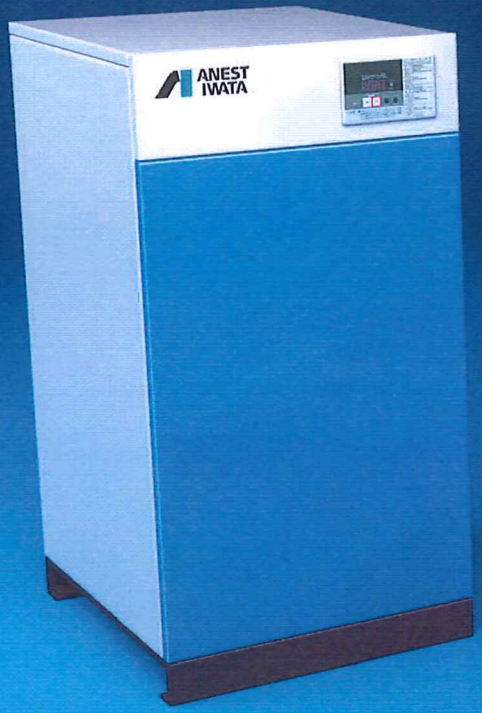
CLASS	オイル濃度 mg/㎥
0	Class1 より厳しい条件で使用者とメーカによって決定する。
1	≦0.01
2	≦0.1
3	≦1
4	≦5



① 液状オイル ② オイルミスト ③ 油煙

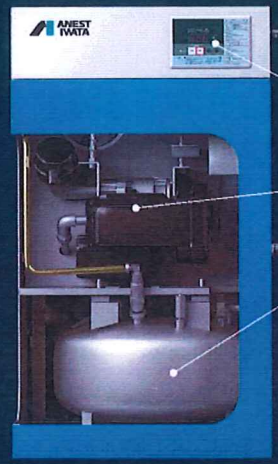
SmartAir (0.75~3.7kW機)

静かでコンパクト。シンプルな空気です。



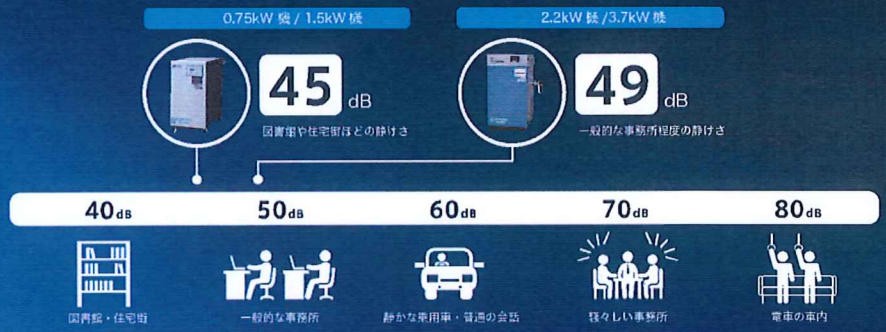
SLP-37EF機　内部構造

コンパクトなパッケージの中に必要な機能を収めたシンプルデザイン。空気タンクも内蔵しており、手軽にご使用いただけます。



優れた静音性

騒音値45～50dBと一般的な図書館～事務所並みの静かさを実現



クリーン

防錆タンク（アルミ・ステンレス製）を標準搭載したことで、ドレンもクリーンに。



0.75kW 機

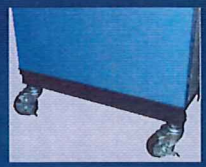
1.5KW ～ 3.7kW 機

コンパクト設計

スマートさを追求したパッケージにより、様々な場所への設置が可能。オプションでキャスターの取付も可能。



設置面積は新聞の1ページ程度。



OCX-813（キャスターセット）取付時。

仕様一覧



SLP - EG Series（5.5 ～ 15kW 機）

＜運転制御方式：マルチステージ制御（圧力センサ発停式）＞

	形 式	電動機定格出力 kW[PS]	制御圧力 MPa	吐き出し空気量 L/min	推奨空気タンク形式	ドライヤ(加圧下露点12℃以下) 冷媒充填量 g	ドライヤ(加圧下露点12℃以下) 消費電力(50/60Hz) kW	空気取出口	外形寸法(W×D×H) mm	質量 kg	騒音値(正面1.5m) dB(A)
ドライヤ無	SLP-55EG M5/M6	5.9[7.5] (3.7+2.2)	0.65～0.8	675	SAT-120C-140 (120L)	—		Rc 3/4 ボールバルブめねじ	680×985×1195	273	52
	SLP-75EG M5/M6	7.4[10] (3.7×2台)		840						291	53
	SLP-110EG M5/M6	11.1[15] (3.7×3台)		1265	SAT-220C-140 (220L)					375	56
	SLP-150EG M5/M6	14.8[20] (3.7×4台)		1680				Rc1ボールバルブめねじ	680×985×1555	484	58
ドライヤ付	SLP-55EGD M5/M6	5.9[7.5] (3.7+2.2)		675	SAT-120C-140 (120L)	R-134a 340	0.41/0.43	Rc 3/4 ボールバルブめねじ	680×985×1195	310	52
	SLP-75EGD M5/M6	7.4[10] (3.7×2台)		840						328	53
	SLP-110EGD M5/M6	11.1 [15] (3.7×3台)		1265	SAT-220C-140 (220L)				680×985×1555	442	56
	SLP-150EGD M5/M6	14.8[20] (3.7×4台)		1680		R-134a/300	0.53/0.59	Rc1ボールバルブめねじ	970×985×1555	575	58
■1MPa仕様											
ドライヤ無	SLP-551EG M5/M6	5.9[7.5] (3.7+2.2)	0.8～1.0	560	SAT-120C-140 (120L)	—		Rc 3/4 ボールバルブめねじ	680×985×1195	273	52
	SLP-751EG M5/M6	7.4 [10] (3.7×2台)		690						291	53
	SLP-1101EG M5/M6	11.1 [15] (3.7×3台)		1035	SAT-220C-140 (220L)					375	56
	SLP-1501EG M5/M6	14.8[20] (3.7×4台)		1380				Rc1ボールバルブめねじ	680×985×1555	484	58
ドライヤ付	SLP-551EGD M5/M6	5.9[7.5] (3.7+2.2)		560	SAT-120C-140 (120L)	R-134a 340	0.41/0.43	Rc 3/4 ボールバルブめねじ	680×985×1195	310	52
	SLP-751EGD M5/M6	7.4[10] (3.7×2台)		690						328	53
	SLP-1101EGD M5/M6	11.1[15] (3.7×3台)		1035	SAT-220C-140 (220L)				680×985×1555	442	56
	SLP-1501EGD M5/M6	14.8[20] (3.7×4台)		1380		R-134a/300	0.53/0.59	Rc1ボールバルブめねじ	970×985×1555	575	58

※1：表に記載されている容量以上の補助タンク（別売り）が必要です。容量選定については当社支店へお問い合わせください。



SLP - Prime Series（1.5kW 機 / 2.2kW 機）

＜運転制御方式：自動発停式（圧力センサ検知）＞

	形 式	電動機定格出力 kW[PS]	制御圧力 MPa	吐き出し空気量 L/min	空気タンク容量 L	ドライヤ(加圧下露点15℃以下) 冷媒充填量 g	ドライヤ(加圧下露点15℃以下) 消費電力(50/60Hz) kW	空気取出口	外形寸法(W×D×H) mm	質量 kg	騒音値(正面1.5m) dB(A)
ドライヤ付	SLP-15EFPD M5/M6	1.5[2]	0.65～0.8	170	20	R-134a 190	0.21/0.23	G1/4Bボールバルブおねじ	453×682×895	120	41
	SLP-22EFPD M5/M6	2.2[3]		255				Rc3/8ボールバルブめねじ		131	44



Smart Air（0.75 ～ 3.7kW 機）

＜運転制御方式：自動発停式（圧力センサ検知）＞

	形 式	電動機定格出力 kW[PS]	制御圧力 MPa	吐き出し空気量 L/min	空気タンク容量 L	ドライヤ(加圧下露点15℃以下) 冷媒充填量 g	ドライヤ(加圧下露点15℃以下) 消費電力(50/60Hz) kW	空気取出口	外形寸法(W×D×H) mm	質量 kg	騒音値(正面1.5m) dB(A)
ドライヤ無	SLP-07EE C5/C6	0.75[1]	0.6～0.8	74	5	—		G1/4B ボールバルブおねじ	355×590×690	46	45
	SLP-07EE M5/M6										
	SLP-15EF M5/M6	1.5[2]	0.65～0.8	170	20				453×507×875	90	
	SLP-22EF M5/M6	2.2[3]		255				Rc3/8 ボールバルブめねじ		103	49
	SLP-37EF M5/M6	3.7[5]		425	35				545×622×1058	139	
ドライヤ付	SLP-07EED C5/C6	0.75[1]	0.6～0.8	64	5	メンブレン方式		G1/4B ボールバルブおねじ	355×660×690	48	45
	SLP-07EED M5/M6										
	SLP-15EFD M5/M6	1.5[2]	0.65～0.8	170	20	R-134a 190	0.21/0.23		453×682×875	116	
	SLP-22EFD M5/M6	2.2[3]		255				Rc3/8 ボールバルブめねじ		129	49
	SLP-37EFD M5/M6	3.7[5]		425	35	R-134a/200	0.23/0.24		545×622×1058	154	
■1MPa仕様											
ドライヤ付	SLP-151EFD M5/M6	1.5[2]	0.8～1.0	130	20	R-134a 190	0.21/0.23	G1/4Bボールバルブおねじ	453×682×875	116	46
	SLP-221EFD M5/M6	2.2[3]		215				Rc3/8 ボールバルブめねじ		129	50
	SLP-371EFD M5/M6	3.7[5]		345	35	R-134a/200	0.23/0.24		545×622×1058	165	

※1：使用条件により別置の補助タンク（別売り）が必要な場合があります。容量選定については当社支店へお問い合わせください。
※2：1MPa 仕様 1.5 ～ 3.7kW 機はドライヤ無タイプもあります。



Think Air（22kW 機 /30kW 機）

＜運転制御方式：マルチステージ制御（圧力センサ発停式）＞

	形 式	電動機定格出力 kW[PS]	制御圧力 MPa	吐き出し空気量 L/min	推奨空気タンク形式	ドライヤ(加圧下露点12℃以下) 冷媒充填量 g	ドライヤ(加圧下露点12℃以下) 消費電力(50/60Hz) kW	空気取出口	外形寸法(W×D×H) mm	質量 kg	騒音値(正面1.5m) dB(A)
ドライヤ無	SLP-220EF M5/M6	3.7×6[30]	0.6～0.7	2700	SAT-400C-140(400L)	—		Rc1 1/2 ボールバルブめねじ	1370×955×1555	809	58
	SLP-300EF M5/M6	3.7×8[40]		3600	SAT-600C-100(600L)					972	59
ドライヤ付	SLP-220EFD M5/M6	3.7×6[30]		2700	SAT-400C-140(400L)	R-134a/340×2	0.41/0.43×2			883	
■1MPa仕様											
ドライヤ無	SLP-2201EF M5/M6	3.7×6[30]	0.8～1.0	2070	SAT-400C-140(400L)	—		Rc1 1/2 ボールバルブめねじ	1370×955×1555	809	58
	SLP-3001EF M5/M6	3.7×8[40]		2760	SAT-600C-100(600L)					972	59
ドライヤ付	SLP-2201EFD M5/M6	3.7×6[30]		2070	SAT-400C-140(400L)	R-134a/340×2	0.41/0.43×2			883	

※1：表に記載されている容量以上の補助タンク（別売り）が必要です。容量選定については当社支店へお問い合わせください。

●吐き出し空気量は、吸込状態（大気圧）に換算した値です。保証値については当社支店へお問い合わせください。
●騒音値は全負荷時、無響音室での測定値です。設置環境により騒音値は異なります。エアドライヤファンの運転時の騒音値は仕様表より 1 ～ 2dB 増加します。
●エアドライヤからの吐き出し空気量はドレン凝縮により圧縮機の吐き出し空気量から約 3 ～ 5%減少します。
●ドライヤ付出口空気露点は周囲温度 30℃、相対湿度 70%、各吐き出し圧力時の値です。
●外形寸法はパッケージの外周寸法です。ボールバルブ等の突起物は含みません。ただし、SLP-07EE(D) の高さにはキャスタの高さを含みます。
●形式末尾に付いている記号の意味は以下のとおりです。
C および M：対応している電源の相および電圧を指します。(C は単相 100V、M は三相 200V)
5/6　：対応している電源の周波数を指します。(5 は 50Hz、6 は 60Hz)

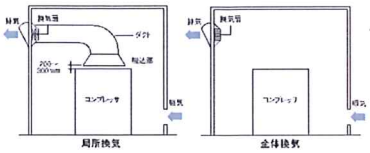
コンプレッサを快適に効率よく使うために

換気についてのご注意

①コンプレッサの性能を充分に発揮し、寿命を伸ばすためには据え付け場所の適切な換気が必要です。
②全体換気の場合、室内上昇温度を5℃に抑えるために必要な換気風量は右記の表のようになります。
この数値は、換気側の抵抗がない場合を示しています。換気扇の選定にあたっては、この数値以上のものを選定してください。(全体換気図を参照ください)
③換気扇は、据え付け場所の吸気口の位置とコンプレッサの吸排気口の向きを考慮して、換気風が再循環しない位置に取り付けてください。
④排気ダクト出口部に換気扇を取り付ける場合は、排気ダクトとコンプレッサの間には必ず隙間を設けてください。(局所換気図を参照ください)
換気扇は内蔵換気扇の風量以上のものを選定し、静圧は排気ダクトの圧損にほぼ等しくなるような性能のものを選定してください。
ドライヤ付の場合は、ドライヤの排気口に排気ダクトを設けずに全体換気としてください。(局所換気図を参照ください)

＊全体換気時の吸気口部の流速を3m/secとした場合。
上記の数値はあくまでも目安であり、設置の際には電気工事設備業者にお問い合わせください。

■ 局所換気図および全体換気図



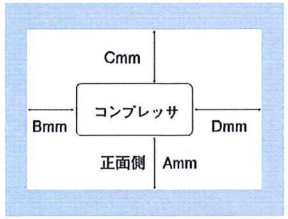
■ 電気配線、電源容量、換気について（参考）

形式	配線の長さ	適用電線最小太さ 電源配線 (mm²)	適用電線最小太さ アース線 (mm²)	漏電ブレーカ容量 定格電流 (A)	局排風量 (m³/min)	全換風量 (m³/min)	吸気有効面積 (m²)＊
SLP-07EE(D) 単相100V	3m以下	2.0	2.0	30	-	10	0.056
	20m以下	3.5					
SLP-07EE(D) 三相200V	3m以下	2.0		15			
	20m以下						
SLP-15(1)EF(D) SLP-15EFPD	20m以下	2.0	1.6	30		20	0.112
SLP-22(1)EF(D) SLP-22EFPD			2.0	40	-	25	0.141
SLP-37(1)EF		2.0	2.0	60		40	0.253
SLP-37(1)EFD						45	
SLP-55(1)EG		5.5	3.5	60	20	55	0.309
SLP-55(1)EGD						60	0.337
SLP-75(1)EG		8.0	3.5	60	25	75	0.421
SLP-75(1)EGD						80	0.449
SLP-110(1)EG		14	5.5	75	40	110	0.618
SLP-110(1)EGD					42	120	0.674
SLP-150(1)EG		14	5.5	100	50	150	0.843
SLP-150(1)EGD					58	160	0.898
SLP-220(1)EF		22	8.0	125	80	220	1.238
SLP-220(1)EFD					84	240	1.349
SLP-300(1)EF		60	8.0	175	100	300	1.687

設置スペースに関して

■ 保守・点検作業が容易にできる場所を選んで設置してください。
コンプレッサの性能を維持するためには、適切なスペースを確保することが重要です。設置スペースは表の距離以上を確保してください。設置スペース図の記号と表の記号と照らし合わせ、読み替えてください。表記の空間は、コンプレッサの正常な機能を確保すると共に、保守・点検作業を行なう上で最低限必要な空間です。設置にあたって、表記以上のスペースを確保できる場合は、保守・点検用機材が使用できるように、できるだけ広くスペースを確保してください。

設置スペース



設置

形式	A 正面 (mm)	B 左面 (mm)	C 背面 (mm)	D 右面 (mm)	上面 (mm)
SLP-07EE(D)(単相 100V)	500 以上	0	0	500 以上	600 以上
SLP-07EE(D)(三相 200V)					
SLP-15EF(D)SLP-151EF(D) SLP-15EFPD	1000 以上				
SLP-22EF(D)SLP-221EF(D) SLP-22EFPD					
SLP-37EF(D)SLP-371EF(D)					
SLP-55EG(D)SLP-551EG(D)	600 以上	600 以上	600 以上	600 以上	1000 以上
SLP-75EG(D)SLP-751EG(D)					
SLP-110EG(D)SLP-1101EG(D)					
SLP-150EG(D)SLP-1501EG(D)					
SLP-220EF(D)SLP-2201EF(D)		700 以上	700 以上	700 以上	1200 以上
SLP-300EF SLP-3001EF					

コンプレッサの設置、使用開始に際して、安全性や公害防止の見地から種々の法規に基づき、定められた方法で顧客の皆様に、設置の届け出や許可、安全性の処置、あるいは定期的な自主点検が求められています。
以下、コンプレッサに適用される規制の概要について説明します。

ボイラーおよび圧力容器安全規則（第二種圧力容器）

※労働安全衛生法に基づくもの

【対象となる圧力容器】
●最高使用圧力0.2MPa以上で内容量40L以上の容器。
●最高使用圧力0.2MPa以上で胴内径200mm以上でかつ胴長1000mm以上の容器。

【お客様にて保管いただく書類】
●第二種圧力容器明細書取扱注意書。
●第二種圧力容器明細書（原本）。
●取扱説明書
平成2年9月13日の官報で労働安全衛生法のボイラーおよび圧力容器安全規定の一部が改正され、所轄労働基準監督署長への第二種圧力容器設置届出の義務はなくなりました。ただし、圧力容器の取り扱いおよび圧力容器明細書の保管等については、従来と同一であり、大切に保管する必要があります。

【設置・使用に際して】使用中は次の事項を守らなければなりません。
●圧力容器改造の禁止
●第二種圧力容器明細書（原本）の保管（検定日より2年以後の再発行はできず再検定となります。紛失した場合は、使用・販売・譲渡が禁じられます）
●安全弁の吐き出し圧力の調整。
●圧力計は、最大目盛りが最高使用圧力の1.5～3倍で、最高使用圧力の位置に見易い表示があるものを使用する。
●年1回以上容器の内外面の掃除および下記の定期自主検査を実施、記録を3年間保管する。（記録用紙は取扱説明書に参考として記載してあります）本体の損傷の有無、ふたの取付ボルトの摩耗の有無、管および弁（バルブ 安全弁）の損傷の有無。
●もし圧力容器が破損事故を起こした時は、速やかに第二種圧力容器事故報告書を所轄の労働基準監督署に提出する。

騒音規制法・振動規制法

【法規概要】
●法律では7.5kW以上のコンプレッサが対象となっておりますが、指定地域、規制値などの運用の判断が都道府県知事に委ねられているため、都道府県により規制の内容が異なりますのでご注意ください。

【届出に必要な書類】
該当するコンプレッサの設置に当たっては、以下の内容を所轄の市町村の公害担当窓口を通じて都道府県知事に、設置工事の開始または変更の30日前までに届け出なければなりません。
●氏名（代表者）または名称および住所。
●工事または事業場の名称および所在地。
※上記2項目の変更の届出は変更後の30日以内です。
●特定施設の種類および能力ごとの台数。
●騒音（振動）の防止の方法。
●特定施設の配置図、その他内閣府令で定める書類。

【設置・使用に際して】使用中は次の事項を守らなければなりません。
工場または事業場の敷地境界線上での騒音（振動）がその地域の規制値以下であること。

フロン排出抑制法

冷凍式ドライヤおよび冷凍式ドライヤ搭載機はこの法律で第一種特定製品として指定されており、使用時・廃棄時に下記の義務があります。

■ご使用時における義務 【簡易点検実施義務】
●使用中は、3か月に1回以上の目視による簡易点検を実施し、その点検記録を当該機器の廃棄時まで保管しなければなりません。
●点検の記録は、該当機器の廃棄後3年間保存しなければなりません。
●フロン類（冷媒）の漏えいが確認された場合は、可能な限り速やかに修繕を行わなければなりません。修繕を行っていない機器へのフロン類の補充は禁止されています。
●1年間で1,000CO2-t以上のフロン類（冷媒）を漏えいした場合は、お客様の事業を管轄する大臣に報告しなければなりません。

■廃棄時における義務【フロン類の回収委託義務】
●第一種特定製品の廃棄時には、各自治体から認可を受けた回収業者にフロン類の回収を依頼しなければならず、その際に行程管理票を交付し 3年間保管する義務があります。
●該当機器を廃棄物業者に引き渡す際、引取証明書の写しを作成し、該当機器と一緒に提出しなければなりません。
●解体工事の場合、元請業者から事前に説明された際に使用した書面を3年間保存しなければなりません。
●フロン類回収後は産業廃棄物として廃棄物処理法に基づいた廃棄処理を行わなければなりません。

コンプレッサを安全かつ支障なくご使用いただくため定期的な点検が必要です。また、事業者に対し定期点検を義務づける法律もあります。点検の実施については取扱説明書をよく読んで行ってください。

⚠安全上のご注意

■コンプレッサの使用対象に関して
●エアコンプレッサは製造生産設備等に圧縮空気を供給するための製品です。
圧縮空気は大きなエネルギーを持っているため、人体に向けてむやみに噴射すると、失明や死亡などの重大な事故を引き起こす恐れがあります。着衣の上からであっても同様です。人体に向けて噴射する必要がある場合、十分な安全対策を講じた設備・装置・器具類を使用し、それらの取り扱い要領にしたがって十分に注意してご使用ください。なお、安全対策の有無を問わず、圧縮空気を直接吸引する設備装置（呼吸器系の装置等）には使用しないでください。
（特殊用途については、当社支店宛にご相談ください）
●オイルフリーコンプレッサは圧縮工程で潤滑油を使用していませんが、大気中の水分、油分や塵埃、製造時の部品付着油分、摩耗粉、配管の錆など微量ですが、不純物が含まれています。圧縮空気のご使用用途やご要求の品質にあったドライヤ、フィルタをご使用ください。
●空気タンクのドレン内にも錆が溜まりますので、ドレン排水は毎日実施願います。
（ドレン抜きの目詰まりの原因となります）
●重要製造設備に使用される場合は、保護装置の作動によりコンプレッサが停止した場合や故障に備え、予備機やそれに代わる装置をご用意願います。
●原子力関連施設など特別な維持管理や信頼性が要求される場所には適用できません。

■保守に関して
●定期的な保守点検、整備が必要です。取扱説明書の記載に基づき、必ず点検、整備を行ってください。取扱説明書の指示（⚠危険、⚠警告、⚠注意）に従わず、保守点検、整備を行わなかったり、誤った取扱いなどをすると、重大な事故（死亡または重傷、物的損害など）の恐れがあります。高品質なエアを得るためには、コンプレッサ、ドライヤ、フィルタのメンテナンスが不可欠です。必ずメーカ指定のメンテナンスを実施ください。また異常発生時には運転はさせずに、お買い上げいただいた販売店様に連絡して修理してください。

■設置場所に関して
●直射日光や雨のあたる場所は避け、粉じん・腐食性ガス・毒性ガスのない場所に設置してください。（寿命低下・故障・破損・火災の原因となります）
●近くに爆発性・引火性ガス（アセチレン・フロンガスなど）、有機溶剤、揮発性物質などの可燃物および、火気のない場所に設置してください。（火災・事故の原因となります）
●アンモニア、酸、塩分、亜硫酸ガスなどの腐食性ガスのある場所では使用しないでください。（発錆・寿命低下・破損の原因となります）
●コンプレッサ本体は防塵仕様ではありませんので、セメント、砂、埃などの塵埃の多い場所では使用しないでください。（寿命低下・破損の原因となります）

■ご使用に関して
●ご使用の前に取扱説明書をよくお読みのうえ正しくお使いください。尚、使い方を誤ると発火事故、感電事故などの重大事故を起こす場合があります。
●製品の改造および部品の改造は絶対にしないでください。（破損・事故の原因となります）
●本製品は日本国内用として製造しておりますので、海外でのご使用は当社支店にお問合わせください

■その他
●カタログに記載の仕様などは製品改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。
●カタログは印刷物ですので実際の商品と多少色合いが異なりますことご了承ください。
●本カタログに記載しています製品を日本国外に輸出する際は、外国為替および外国貿易管理法の規定に基づく許可が必要となりますので、必ず当社支店にお問合わせください。
●この安全上のご注意は必要最低限のものです。ご使用の際には取扱説明書に示す安全事項、国や自治体の消防、電気、安全関連の法規、規則、またそれぞれの企業や事業所で規則・規定として守るべき事項に従ってください。